

地主間の不平等を力説する者も現れ、これが「不平等論」の始まりとされる。この論争は、明治維新後、日本が世界に開かれてから、その社会的・政治的・経済的な変化に対する反応として生じたものである。一方で、明治政府は、この論争を通じて、自らの立場を確立し、その政策を実行する機会を得た。たとえば、明治政府は、不平等論をきっかけとして、明治維新の際に制定された「五箇年開港通商規則」や「五箇年通商規則」などの法律を改定し、さらには、明治政府は、不平等論をきっかけとして、明治維新の際に制定された「五箇年開港通商規則」や「五箇年通商規則」などの法律を改定した。また、明治政府は、不平等論をきっかけとして、明治維新の際に制定された「五箇年開港通商規則」や「五箇年通商規則」などの法律を改定した。

も夜通し懸つて焼き朝手を置くと云ふ有様で之れは世間一般人の慾望を充たす爲めパン焼労働者が夜通し仕事を仕て居るがパンを食ふ人はそれで結構であるが然しパン焼労働者は人の欲望を充たす爲めに夜業を仕なければならんそんな譯で辛らい夜業をする關係上年中夜業する爲め日の目を見ることがなく晝は寝て夜仕事をすると云ふ事は甚だ健康上宜敷くない併しながら温いパンを食ふて居るが夫されは却つて健康上宜くない温いパンは胃を壊す基であるから實際はパンを焼てから四時間か五時間たつて冷へたパンが一番宜い。であるから夜業を止めて少しは不味いが冷へたパンを食ふ事は労働者の幸福のみならず一般人の健康上幸福だから夜業は止めたが宜いと云ふ趣旨であります第五は失業問題に關する件でした第六は炭疽病に關して議題に供せられましたが諸君も御承知の通り此病氣は恐しい病氣であつて羊の毛を輸出する場合に澤山の金を懸けて消毒する夫れに就て英國では羊毛消毒に對し大變な金を懸け而も大仕懸けな